

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

### 【小学生編】

#### 【Question 1】

特色ある教育としてふるさと学を推し進めておられるが、本当に地域で頑張っている方を紹介する内容になっていないと感じる。またふるさと学の内容が、地域が絶対で地域に残るのが正義という匂いがしてならない。様々な選択肢の中から一度は外に出ても帰ろうとする気持ちや、グローバルな視野を養うためにもふるさと学について見直しが必要と思う。

#### 【Anser】

##### ■担当課

「ふるさと学」というのは平成 30 年度から、安芸高田のふるさとの自然や伝統文化、産業・暮らし・人などについて学ぶことを通して、故郷に愛着と誇りを持ち、そこから自分の生き方を考えていくという学習で、各校で進めていました。

これまでその学習を通して、安芸高田の良さを改めて見つめ直すことにつながったり、地域に出かけて地域の人々の生き方から学ぶことで地域に愛着を持つことにつながったりしていました。市内のある中学校では、将来の自分の職業や社会の中での役割などを学ぶということと関連付けて、地域の事業所と連携して地元の特産品の歴史や製作にあたってのこだわり、販売などについて学びました。それで修学旅行先で実際に販売体験をするということで、働くことの意義を実感させるという取り組みを行っています。

今後はさらに子どもたちの主体的な学習になっていくように、子どもたちの興味関心を大切にしたい探究学習を進めていくことが大切だと考えています。地域を学ぶだけではなく、地域から学んだことを発展させて他の地域はどうなのか、日本や世界に目を向けて課題を見つけたり、課題を解決していくということができるよう学習にしていこうと考えています。

##### ■石丸市長

就任以来この「ふるさと学」についてはものすごく議論を重ねさせてもらって根本の見直しを今図っています。何を見直しているのか端的にいうと、「地域を学ぶ」ことではなく、「地域で学ぶ」ことが大事だと、ネーミングからして良くないと全否定してしまいました。「ふるさと学」という名前にしてしまうと、どうしても郷土愛、愛さなきゃいけない、ここにいないてはならないという凄まじい束縛を感じてしまいました。でもそうじゃなく、どこに行ってもいい、何やってもいい。みんなが思う存分この人生を謳歌してほしい。

そうなるための学問・学科だったら、価値が大きいだろうと考えています。子どもたちが主体、子どもたちが主役、主眼。ここを徹底的にぶらさないように、ぶれないように、この「ふるさと学」というものを再定義、再構築していこうというのが今の取り組みです。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【Question 2】

最近学校側が力を入れている様子の「自学」という宿題。私は「自分が勉強したい事を自分で決めて良い」と伝えて、図書館で本を借りて帰ったり一緒に調べたりしてノートにまとめていましたが、先生からは不評のようで「出来るだけ漢字や算数をやって来ようね」と言われたと。「自学」の捉え方は家庭それぞれ。曖昧な宿題の出し方に疑問です。

### 【Anser】

#### ■石丸市長

一般論として、まず説明する側が足りなかったのか、聞く方の読み取りが足りなかったのか、その両方になることが多いと思います。ただ容易に想像がつくのが、この先生の説明が足りなかったのだろうなというふうに思うところです。きちんと指示を出さなきゃ子どもが迷うだけ。裁量を与えるのは結構なのですが、どこまでの範囲の裁量なのか、その枠は大人が責任をもって決めるべきだと思います。

#### ■担当課

市長が申されましたように、「自学」に関わって学校でも伝えている部分ではあるのですが、これまで以上に一人ひとりの子どもに合った学習の仕方のアドバイスであったり、いくつか選択肢を出してそこから選ばせるなど、子どもたちとしっかり対話をしながら「どういった学習が今必要なのか」を一緒に考えていく必要があると考えています。

これまでではどちらかというとい律に同じものを家庭学習として出していたが、それだと子どものやる気とか可能性を伸ばす、引き出すことにはつながりにくいと考え、今安芸高田市内の学校では家庭学習の充実ということに取り組んでいます。小学校の低学年・中学年の段階では、勉強する習慣をつけたり、どんな学習の方法があるのかを学んだりする段階でもあるので、発達段階によっては教員が決めて出すということもあります。

またこれからしっかり学校から保護者の方に共有しながら進めたいと思います。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### ■石丸市長

今のお話にあった通り、自分に必要な宿題をする。これが理想だと思います。

私の余談をするのですが、中学校2年生の時に英語の宿題で単語を書くというのがありました。何ページと book book book... apple apple apple... 意味がないと思って提出しませんでした。ただテストは全部満点取りました。そうしたら、学期末の成績表が10段階で3か4がついてしまい、「厳しいな」と思って先生に聞いたら、「【宿題を出す】という評価があるので」と言われて、話が通じないなと思ったのを今でも覚えています。

今はもっと柔軟になっているはずです。手段ではなく、目的が大事です。これは先生もよく分かってもらっているはずです。「お子さんがこの自学の時間に何をやるべきか」これはちょっと大人の方が見てあげる必要があるかなと思います。そうした方が何倍も効果が高くなると思いますので、ぜひその自主性、先生に例え怒られようとも突破するみたいなのはこれからの時代あってもいいのかなと思いますので、特にこの自学というのは制度としても教育としても重視すべきだと考えています。

### 【Question 3】

ふるさと学についての提案。地元は良いよ、帰って来いというエビデンス無き学習より、如何にして地域で生活基盤を作り、子育てをし、経済を循環させるかを子どもに考えさせるために、お金についての学習を付加したら良いのではないかな。霞を食っては生きてはいけない。有る程度の経済的余裕があってこそ、教育や文化を育む事ができると考えるのでは。

### 【Anser】

#### ■石丸市長

"生きる"とは?と考えたときに、“お金を稼ぐ”というのがこの経済社会においては必須です。

これは当然教えないといけないのだろうなと思います。私自身前職が銀行で勤めていまして、そのお金の大事さ、重要性というのは、よくよく知ったところですが、もっと早いうちからこの"金融教育"というんでしょうか、それがあっていいのかなと思っています。

また私の例で一つ参考になるかもしれないのでお話するのですが、私自身はこの町を出て外で勉強したり、仕事する時にすごく良かったなと思うのは、「ふるさとで学んだこと」です。生まれ育ったのは吉田町の商店街。まわりお店屋さんばかりですね。実家が高宮町にあるのですが、田んぼの中で育ちました。中学校3年生くらいの時には、田植えから稲刈りまで全部自分で機械を運転できるぐらいになっていました。大人の社会の中で自分が存在したこの経験はすごくその後の勉強や仕事をしていく上で役に立ったように思います。

この「ふるさと学」では、ふるさとで学ぶ、その中で生きる術、その切れ端でも知ることができたらいいだろうというふうに思っています。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【Question 4】

核家族化が進み、地域との関わりがなくなっている現状。私は【機能不全家族】が増えているように感じます。機能不全家族で育った子どもたちは【アダルトチルドレン】と呼ばれ、自由に人格を形成する機会を失うそうです。健全な子ども育成に、安芸高田市でも始まっているネウボラに期待したので、市の今後の取り組みを聞いてみたいです。

### 【Anser】

#### ■担当課

安芸高田市においては、これまで独自のネウボラに関する取り組みは行ってきました。今年度から広島県版ネウボラに近い形で実施していくようにしました。"地域子育て支援センター事業"とって、平成31年から、各町保育所で地域に根ざした子育て支援を充実するように実施し、保健師等を派遣、相談等に応じております。今後これをより充実した形でやっていきたいと思えます。

また、この3月には子育て支援課がクリスタルアージュ1階の健康長寿課の横に場所を移動します。これによってより連携が取れるのではないかと考えています。健康長寿課の方もそれによって、事業の方を充実する予定にしています。

具体的には助産師の力を借りて、産前産後ケアのサポート事業を始めたり、いろんな教室を今後開催するように検討しています。

先ほど出ました"アダルトチルドレン"とか"機能不全家族"、確かにこういった核家族化の進行によって、あまり外部と接触をしない、どうしても家に引きこもるような家庭もあります。こうした家庭には、子育て支援課、家庭児童相談員など、いろいろな相談員が接触を図ります。

まず健康長寿課が行っている「こんにちは赤ちゃん事業」で、産まれた赤ちゃんのところに全戸訪問して、お話をしたり、そういうことから始めています。

今後そういったことも力を入れてやっていきますので、よろしく願いいたします。

#### ■石丸市長

このネウボラなのですけど従来この町が独自でやっていました。

結論としては、これから先は国や県の制度に合わせたネウボラ体制にしていきますので、そのあたりの補助金等予算は厚めに手に入ります。今まで以上に充実した事業となると思っていますので、ぜひご期待ください。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

### 【小学生編】

#### [フリー質問]

これまでも"市の保健師が自宅を訪問し"とか書いてあるが、私も市外から子どもを連れて引っ越してきた。その時いろいろ事情があって、向こうの保健師さんが「安芸高田市の保健師さんに引継ぎましたので、引き続き訪問とか相談をしてもらってください」と言われた。

安芸高田市の保健師は一回来られたきり。それ以降は何も音沙汰もなく。

うちは障害を持った子どもがいるんですけど、そういう時に困った時も現時点では、正直何度相談しても、何度支援を求めても、ちゃんとした対応はしてもらえなくて。

これから保健師さんが増えるとか、こういった事業が始まるって言うんですけど、やっぱ増えるだけじゃなく相手の本当にしんどいところに寄り添って支えてくれる、もっと専門知識を深めて、そういう人をどんどん増やしてもらいたい。

ただのその辺の子育てしたことがある、でも悩んだことがない人が保健師さんみたいな感じで来られても、もっと深い傷というか、もっとすごくしんどい思いをしている人のアドバイスにはならないって思っているんで、もっと深い専門知識を持った人を増やしてもらいたい。

#### ■担当課

保健師の訪問も出生された時に、一回きりかもしれませんが最初訪問して、いろいろ話を聞いております。その後子育て支援課が関わったり、社会福祉課が障害福祉の方で関わるなど、そういったことがより丁寧にできれば良かったのですが、そういうことがなかったというふうにお聞きしました。

今後はそういった意見を反映させながら、取り組むようにしていきたいと思います。

#### ■石丸市長

この“サービスの不足”ですね。これについてはもちろん質が悪くて、それを高めていくべしというのはあるのだと思います。と同時にやはり量が圧倒的に足りていません。要は手薄になってしまうという面もあるのかなと思います。これはネウボラに限らず行政のサービスってというのは往々にしてそういうことがあるなと感じます。

それこそ市役所の職員 300~400 人ぐらいですが、私が言うのは変ですけど、結構皆さんが頑張ってるじゃないですか。でもそれでもやっぱり住民の皆さんの満足に至らない、かゆいところに手が届かないという声がたくさん届きます。それはやっぱりマンパワーが不足しているなと、どうしても感じるがあります。

そのあたりはまさにお金の話だったりします。そのあたりはちょっとずつですが、まずは量が充足されてそれが質に結びついていくと。一発でグッと改善するには至らないかもしれないですが、着実に前に進んでいけるだろうと思っています。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【Question 5】

田舎なのに公園が少なすぎる。都会の方が小さくても遊べる場所が確保されているような気がします。世界一住みたい町づくりはまだ住んでいない人を対象とした考えで、今現在「安芸高田市に住んでいてよかった」の町づくりにも考えを向けて欲しい。都会の真似をして利便性を上げてでも都会にはかなわない。田舎・自然とともに住む良さを発信して欲しい。

### 【Anser】

#### ■石丸市長

田舎が住みやすいかどうかでいうと、私正直住みにくい町だと思います。好き嫌いはあると思いますが、不便は不便です。でも住みたいと思っています。

"田舎なのに公園が少なすぎる"というこの問題に、ちょっと私から聞いてみたいなと感じました。ここでいう"公園"というのはどんな公園なのかなと。私が考える公園は2種類あります。1つは"パーク"。もう一個が"プレイグラウンド"っていうもの、遊び場です。

具体的にいうと"パーク"というのは、緑の敷地で、噴水があって、木があって、ベンチがある。犬の散歩をしていたり、これが"パーク"なんですね。

一方で"プレイグラウンド"っていうのは、多分日本のイメージに近いんですけど、ジャングルジムがあって、何かあって、子どもが遊ぶ場所が"プレイグラウンド"です。

質問の公園がどっちなのかなと思うのですが、日本の場合は両者がミックスされているケースが多く存在します。多分"プレイグラウンド"が足りないということかと思うのですが、だとしたら、人口比でこういうサービスは供給されますので、人の数が少ない田舎、しかも人口密度が低いと、ポツンポツンとしかそれができないのです。これは田舎ならではの問題だということができます。これを解消するかどうかだと思っています。つまり解消しないという選択肢もあり得るんじゃないか。なぜならば田舎だからです。

私自身"プレイグラウンド"で遊んだことがないです。商店街の裏は多治比川、あそこで遊んだり、高宮町の田んぼで遊んだり、大浜公園行ったり、郡山に登ったり。

それで良しと昔はしていたんですけど、それを今の時代もそれで良しとするか、もしくは時代にあった、ユニバーサルデザインの、いろんな遊具を設置するのかなです。

ああいうものを置いてみるっていうのも一つの案だと思いますが、あれ結構お高いんです。

大きいウネウネした滑り台とか、あれだけでなんか1,000万円級だったりする。それを果たして置くのかっていうのは、改めて私から皆さんの方に、今日に限らずぜひ問いかけていきたいなと思っています。三次にあるあれが欲しいね、というのも分かるんですが、それを本当にここで抱えていくのか、それを使いきれぬのかこの町が、というのはものすごくケチ臭い話で恐縮なんですけど、お金がない町ですので、それだったらもっと違う何かを子どもたちに提供した方がいいのかとかですね。そういう議論をさせていただければと思っています。

もしこれについて何か今ご感想等あれば伺ってみていいですか。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

### 【小学生編】

#### [フリー質問]

私はこれに「いいね」をしたんですけど、私は子どもが遊べる場所というふうに考えました。あまり遊べる場所が八千代町にはなく、保育園の下に"下グラ"って呼ばれていた割りと遊べる場所があったんですが、そこで保育園の建設が始まって遊ぶ場所が無くなってしまった。自転車でフラフラ遊んだりとか、遊び場がないって声をよく聞いています。空いている敷地が目につくので、そういうところにトイレだけでも設置してもらえたら、そこで遊具がなくても何かしらの遊びができるんじゃないかなっていうふうに思ったりしています。

#### ■石丸市長

その意味ではどうでしょうか、幼稚園・小学校の開放等で何か参考になるお話があったりなかったり。

#### ■担当課

ちょっと年齢が下の方向けになってしまうのですが、先ほどちょっとお話した"地域子育て支援センター事業"っていうのは、広く保育園や認定こども園を地域に開放する事業です。先ほど市長が言いましたが、公園整備をすると莫大お金がかかって、なかなか新規のものを作ることができませんので、できるだけ保育園とかを地域の方に開放するようにしています。ただ、保育園は日曜日とかやってなく、土日に遊ぶ所ってなると使いづらい部分はあるのですが、そういった部分について今後使いやすい形にしていきたいと考えています。まだまだ広報が足りてない部分もあると思うが、保育所関係についてはこれからも地域の子育て支援の重要拠点として充実させていきたいです。

#### ■石丸市長

ちなみに結構お金がかかる施設の代表例がトイレです。トイレそのものの設置もなんですけど、浄化槽を置いてそれを運営していくというのが結構な手間とお金がかかります。今この町では、箱物の統廃合・整理を進めているんですけど、その一番のポイントが昔作ったトイレを片付けていくというところになっています。例えば土師ダムにあるキャンプ場は採算が良くないんですけど、その主因はトイレと浄化槽なんです。電気代や水道代。結構トイレは大事なものですが、だからこそお金を食ってしまうという事情はあります。ただそれも踏まえて、より子どもたちのためになる施設を作っていきたいと思います。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

### 【小学生編】

#### [フリー質問]

私は吉田町なんですけど、やっぱりトイレがあるような広場がほしいです。

例えば、市の所有している小学校の配管の近いところにトイレを設置するなど、対策をすれば少しでもコストを抑えられるんじゃないかなというふうに思います。

昔は田んぼとかで遊んでたんですけど、今は田んぼでは遊べません。川とか何かで行ってもやっぱり危ない。遊べないと思いますので、整備された公園というのは安全の面でも必要じゃないかなと思っています。

#### [フリー質問]

甲田小学校なんですけど、先週子どもの友達のお母さんが体育館を貸し切ってくれて、すごく楽しかった、充実した1日だったと言って帰ってきたので、体育館が空いてたら借りれるよということがわかるように周知してもらえたらいいなと思います。体育館等は元々ある施設なので、浄化槽とかの問題もないだろうと思います。

田んぼアートのところを公園にするというのを見かけたが、あそこが子どもも遊べるような公園になるのかどうかっていうところが、ちょっと知りたいのですが、いかがでしょうか。

#### ■石丸市長

お話いただいた、空いてる施設を使いましょう。全くおっしゃる通りです。この町には稼働率の低い施設が非常に多いです。皆さんもぜひ学校とか、市の施設を使っていただければなと思います。吉田温水プールはガラガラですよ。私いつも行って大体1コース占有して泳いで練習しています。

ちょっとでも皆さんでレクリエーションをしていただければなと思います。

あと、田んぼアートですけど、公園として整備する計画があるといえばあります。なんでそんな言い方するかというと、「公園を作る」と言ってお金を借りてきているので、公園を作らないとお金を返さないといけないんです。非常に厳しい立ち位置にいます。作るにしてもお金がないから困ってるんですが、やめるにしても苦しいという状況です。

ただ結論としては、あそこを有効に使うべきだと思っています。元々田んぼアートというのは、市外からの集客を目的としていたのだらうと思われるのですが、市民の市民による市民のための憩いの場、それをあそこに構築するほうが生産的だと思っています。

その際に、これは全くの私の個人的な思いつきですが、パークとプレイグラウンド、それぞれの要素を混ぜずに併存させるような物、要は大人も楽しみ子どもも楽しむような公園だとしたら市民にとってもいいですし、市外からも集客力がもしかしたら付与できるんじゃないかなと欲を張って考えていきたいと思っています。



## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【Question 6】

安芸高田市から普通科のある高校が無くなり、大学進学を目指す子ども達は市外の高校を選択せざるを得ない状況にある。民間の塾についても広島市内と比べて環境に差があり、勉強に力を入れたい場合、安芸高田市に暮らす事が足枷となっている。行政としてその環境の差をカバーする取り組みは検討されているのか？

### 【Anser】

#### ■石丸市長

市内に県立高校が二つありますが、管轄がうちにないのが現状です。安芸高田市の教育委員会は中学校までで、高校となると県の方をお願いをしないといけないというのがまず前提としてあります。ただこちらから主導的にいろいろ関与しようと思っています。具体的には「特色を出す」。何のためかという生き残りです。生徒数が年々減少していますので、この流れでいけば多分二つともなくなってしまうのではないかという見込みです。

でもそうになってしまうと、いよいよ地元の子もたちがここで学べなくなってしまうので、そうなる手前で引き留めたいと思っています。ちょっとテコ入れではなく、根本から大きく特色付けていって、この二つの高校をこの町の武器として世に示していける、その姿を理想としています。

#### ■担当課

子どもたちにとって、「高校がどんなところか」というところを実際に高校と連携して、見ていただくというような取り組みを進めています。これからも高校との連携をしていきたいと考えています。

#### ■石丸市長

その意味では広島県の平川教育長が、めちゃくちゃキレモノです。すごく前のめりで、私も何回かやりとりさせてもらったのですが、こちらの考えにすぐ食いついてくださいます。何とか、平川さんと連携して一つでも二つでもこの高校教育においても成果を出していきたいと考えています。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【Question 7】

PBL 学習が注目を浴び、各校で自学に力を入れておられます。本来の PBL の内容から逸脱し、子ども任せで「自分たちで考えろ」的な指導が見受けられます。基礎学力もなく疑問に思った段階で適切な指導やサポートがないと、単なる綺麗でカラフルなノートを作り高評価というのが現実かと。企業や専門家から PBL について指導を受けた方が良いのでは。

### 【Anser】

#### ■石丸市長

これについて担当課がコメントを入れているので、皆さんご覧いただけますでしょうか。その中にすでに専門家の力借りますというふうに書いてあります。そのあたりで何か補足ができませんでしょうか。

#### ■担当課

"PBL"というのは、これまでも総合的な学習を中心とした時間の中で、子ども達が課題を見つけて探求していくという学習を進めていました。このプロジェクト型学習については、広島県教委の研修などで専門家からの指導や支援を受ける機会が設けられているので、今後より効果的な学習について教員がしっかり学んでいけるように検討していきたいと思います。

#### ■石丸市長

これに限らず、さっきの話にも関連しますが、やはり人手が足りないので手が回りきっていない。その現実があるようには思います。

来年度から少し人員を手厚く現場ないしはその教育のところに配置できるようにちょっとずつですが、枠組みは調整をしています。このプロジェクト型学習に即効効くかということ、まだそこは少し様子を見ていくしかないのかなと思います。全般的に陣容は厚くしていく方針です。

### [フリー質問]

平成元年の議会を傍聴しに何回か行って、遠隔授業について市長はどういうふうに考えていますか。それは入れた方がいいって思われてるか、そうじゃなくて、やはり授業は学校で行うべきと思われているのか。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### ■石丸市長

教育委員会の前にこんなことを言ってしまうと、後で誹りを受けます。

どんどん遠隔授業をやるべきだと思っています。私自身の経験ですが、今まで受けた授業で一番感動したのは"代ゼミ"でした。代ゼミのサテライト授業っていうまさに遠隔授業だった。やっぱり教えている講師のスキルが違うんですね。代ゼミというのは東京に講師を集めて、それを全国に配信します。講師1人の年収3,000万円とかですよ。聞いているだけで楽しめる、笑っている、勉強したくなります。オンラインというものの強みをどんどん活かしたらいいと思います。それは、学校ではなく家で勉強できるっていうこの時間的、空間的制約を無くすというのですし、もっと本質的に質の高いコンテンツを共有できるという所にこの良さがあるのだと思っています。出来る限り遠隔授業を普及すべしというふうに考えています。

### [フリー質問]

最近どこの学校でもあると思うのですが、不登校の子が結構多くて、うちの子も不登校になっていたが、最初は(学校に)行かせていました。

不登校になる子って「行きたくなくて行かない」のではなく、もう行けない状態で、最後は過呼吸起こして(私が)倒たんです。そうなるまで親としては行かせようとする。先生も家に連絡を入れる。その悪循環でどんどん子どもが萎縮してしまって、そういう子も学校に行きたいっていう気持ちを持っている。その気持ちを、学校に行けない自分がもうこの世に存在する意味がないっていうふうな考え方になる子がすごく多く、不登校の子の中で自殺の話が盛り上がっていて、それがちっちゃい町内でも何人か関わっているのを見てしまった。一社会人、一人の人間として、いつか(授業に)出られるようになった時に、少しでも遠隔で学んだ授業が、何か役に立ってくれたらと思っています。よその市外でもそういうことで悩んでいる親御さんがすごく多いと思う。そういうのを始めたら、市外から移り住んでくれる人もいるだろうし、そういう考えがあって市長のお考えを聞きたくて来ました。

### ■石丸市長

遠隔授業というのは一つ、不登校の子ども達に救いになるのかなと思いますし、私がちょっとお話した、総じていろんな子ども達にすごくメリットがある話だと思っています。

もう一回不登校の話をさせていただくと、いろんな支援を今用意しています。

もう間もなく始められるのが、"スペシャルサポートルーム"です。中学校の中にスペシャルサポートルームですよね。

教室として、要は保健室で今までサポートしていたものを、それ専用の物を作っていこうというものです。これは広島県が主に言ってくれて、まさにその平川さんが「これがいいですよ」と言ってくれているものですね。今後導入していきますので、その辺りも一気にすべて解決とはいかないかもしれないですが、ちょっとずつ解消されていくかと思っています。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

[フリー質問]

うちの子も不登校を経験して、実際あすなろに行かせてもらったんですけど、さっき市長が中学校の中にそういうものを作ると言われたが、不登校の子は学校に行くこと自体ができない。それなのにそんなところに作られても行けない。保健室は行けないです。そういうのはどう考えてますか。

■石丸市長

実にその高いハードルを小さくする試みというのが、そのスペシャルサポートルームには施されています。それにはいろんなパターンがあるらしいのですが、みんなが入る入り口、下駄箱、玄関とは別に、直結してその部屋に入れるようにしてあったり、その部屋というのは外は見えるんだけど、中の様子は外からあんまり見えないようになっていたり、入りやすく過ごしやすい環境になっていたりします。

完全に分離してしまうというのも一つの解決策になると思うんですけど、それを少し中に近づけることによって、また違う開放、解決の仕方を探ろうというのが特別支援室の趣旨です。

[フリー感想]

私保育園の子もいまして、前回の時にも参加したかったんですけど、参加することが難しく、今回参加させていただきました。なかなかこういう機会がないのすごく貴重な会だと思って、家族、子ども達にも願いをしてきたんですけど、やっぱり思っているのは、みんなそれぞれ親はいろいろ考えてると思うので、みんながこの場に来る人だからこそ言えることもあるんですけど、最初に(市長が)おっしゃったんですけど、そうじゃなくてもっといろんな人の声があげられるような安芸高田市になってほしいと思っています。

[南澤議員より感想]

今みたいな皆さんからいろんな声が出ていて、それは市政に反映されていくものだろうと感じています。

実は12月から市議会議員をしまして、子育ての難しさとか、もっとこうなったらいいのという声をぜひ市政に届けたいなと思って、この仕事に就いています。

お役に立てることがあるんじゃないかなと期待してるのと、自分自身期待してる場所があるので、ぜひお話を聞かせていただいて、また皆さんに集まっていただいて、どの問題から解決していくのか、話もさせていただければと思いますので、ぜひ今後ともに何かお役に立てるようにお付き合いいただければと思います。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.2.24 19:00-20:00

【小学生編】

### 【石丸市長総括】

まずは最後になりますが、今日は貴重なお時間をいただきまして本当にありがとうございました。ここで出た意見、しっかりと市政・施策に反映をしていきたいと考えています。

もちろんこの slido の中に書き込まれたものも全部目を通して、しっかりと関係各部、担当部署で協議をしていきます。

それでも尚、やはりこれじゃない、足りない、出てくるかと思えます。

このような会も引き続き開催していきますが、これに限らずもし何か気になるものがあれば、ぜひお気軽にこの市役所に声を寄せていただければと思います。

方法としては、本庁や支所に設置してある意見箱というものがあったり、ネットでお問い合わせというフォームからのご意見を送っていただけます。そこに届いたものは全部私の目に入るようになっていますので、何か気になることを思いつかれることがあれば、ぜひ遠慮なくまた教えていただければと思います。

本日は改めてどうもありがとうございました。